

3 果樹植物成長調整剤

樹種	薬剤名	【対象品種等】 使用目的	使用 方 法				注 意 事 項	
			希釈倍数	使用時期	使用方法	回数		
ナシ	ジベレリンペースト	【日本なし】 ・果実肥大促進 ・熟期促進	(原液)	満開30～ 40日後	幼果1果当たり 20～30mgを 果梗部へ塗布	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤が果面に付着すると薬害が出るので、果実に付着しないように注意して塗布する。 ・定植後の新梢伸長促進では全花除去した短果枝の新梢基部に塗布する。 ・ジベレリンを含む農薬の総使用回数は2回以内(果梗部塗布は1回以内、新梢基部塗布は1回以内)。 	
		【日本なし】 ・新梢伸長促進	(原液)	満開予定日 10日前～ 満開40日後	1枝当たり 100mgを新梢 基部へ塗布	1回		
		【日本なし】 (苗木) ・新梢伸長促進		萌芽期～新 梢新長期	頂芽基部塗 布または新梢 基部塗布	3回 以内		
	ストップール液剤	【赤なし】 (ただし、王秋を除く) ・収穫前落果防止	2,000～ 3,000倍	収穫開始 予定日の 14～7日前	立木全面散布 200～300 ℓ/10a	1回		<ul style="list-style-type: none"> ・樹勢の弱い樹では、早期落葉する恐れがあるので、樹勢を考慮して使用する。 ・展着剤は加用しない。 ・散布後に降雨があっても再散布はしない。 ・ジクロロプロップを含む農薬の使用回数は1回。
		【青なし】 ・収穫前落果防止	1,500～ 2,000倍					
		【王秋】 ・収穫前落果防止	2,000～ 3,000倍	収穫開始 予定日の 30～7日前				
ブドウ	アグレプト液剤 (ストレプトマイシン液剤) [RAC F:25]	・無種子化	1,000倍 (200ppm)	満開予定日 の14日前 ～開花始期	散 布 200～700ℓ/10a 花房散布 30～100ℓ/10a 花房浸漬	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・本剤は殺菌剤である。 ・展着剤は加用しない。 ・ストレプトマイシンを含む農薬の使用回数1回。 	
				満開予定日 の14日前 ～満開期	花房浸漬 (第1回目 ジベレリン 処理と併用)			
温州 ミカン	フィガロン乳剤	・間引摘果	1,000～ 2,000倍	満開20～ 50日後で 生理落果 のある時	立木全面散布 葉先からした たりはじめる程 度 250～500 ℓ/10a	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・目的以外の植物に対してもごく微量で影響があるので、周辺の植物にはかからないようにする。 ・気象や生育の条件によって反応が大きく異なるので、使用に当たっては薬剤に添付された効果・薬害等の注意事項を熟読して理解し適切に使用する。 ・エチクロゼートを含む農薬の使用回数は4回以内(1,000倍希釈散布は2回以内) 	

樹種	薬剤名	【対象品種等】 使用目的	使用方法				注意事項
			希釈倍数	使用時期	使用方法	回数	
キウイ フルーツ	フルメット液剤	・果実肥大促進	ホルクロルフェニロン 1～5ppm	開花後 20～30日	果実浸漬 又は 果実散布	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・処理液調合方法は希釈表参照。 ・処理時期が早い場合には、変形果の発生、生理落果の増加、過剰肥大に伴う糖度低下を生じるおそれがある。 ・果頂部に薬液がたまると変形果発生につながるため、処理後、棚の針金等をゆすり、過量の薬液を振り落とす。 ・ホルクロルフェニロンを含む農薬の使用回数は1回以内。
リンゴ	ストップール液剤	・収穫前落果防止	1,000～ 1,500倍	収穫開始 予定日の 25～7日前	立木全面散布 300～600 l/10a	2回 以内	<ul style="list-style-type: none"> ・効果を安定させるために2回散布する場合は10日程度間隔をあける。 ・展着剤は加用しない。 ・散布後に降雨があっても再散布はしない。 ・ジクロルプロップを含む農薬の総使用回数は2回以内。

※これ以降のブドウに関する薬剤の登録内容は、本県の推進品種である「シャインマスカット」、「藤稔」、「ブラックビート」、「サニールージュ」、および「巨峰」、「デラウェア」についてのみ記載する。

ブドウ[無核栽培] ジベレリン粉末

- ・降雨やフェーン現象などによる異常乾燥の心配が無い日を選んで処理する。
- ・着粒が安定するとともに果粒の肥大が促進されるので、着果過多（過密着）による裂果発生の恐れがある。

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		希釈倍数	使用時期	使用方法	回数	
サニールージュを除く巨峰系4倍体品種 ※「藤稔」、「ブラックビート」、「巨峰」が該当	・無種子化 ・果粒肥大促進	第1回目： ジベレリン 12.5～ 25ppm	第1回目： 満開時～ 満開3日後	第1回目： 花房浸漬	2回 以内 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内)	・ジベレリンを含む農薬の総使用回数は3回以内。但し降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内。
		第2回目： ジベレリン 25ppm	第2回目： 満開10～ 15日後	第2回目： 果房浸漬		
	ジベレリン 25ppm	満開3～ 5日後 (落花期)	花房浸漬 (ホルクロルフェニロン 10ppm液に加用)	1回 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)		
	・無種子化	ジベレリン 12.5～ 25ppm	満開時～ 満開3日後	花房浸漬 (満開10～15日後に ホルクロルフェニロンによる 果粒肥大促進 処理を行うこと)	1回 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	
・果房伸長促進	ジベレリン 3～5ppm	展葉3～ 5枚時	花房散布 30～100ℓ/10a	1回		
サニールージュ	・無種子化 ・果粒肥大促進	第1回目： ジベレリン 12.5～ 25ppm	第1回目： 満開時～ 満開3日後	第1回目： 花房浸漬	2回 以内 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内)	
		第2回目： ジベレリン 25ppm	第2回目： 満開10～ 15日後	第2回目： 果房浸漬		
		ジベレリン 25ppm	満開3～ 5日後 (落花期)	花房浸漬 (ホルクロルフェニロン 10ppm液に加用)	1回 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	
	・無種子化	ジベレリン 12.5～ 25ppm	満開時～ 満開3日後	花房浸漬 (満開10～15日後に ホルクロルフェニロンによる 果粒肥大促進 処理を行うこと)	1回 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	
	・果房伸長促進	ジベレリン 3～5ppm	展葉3～ 5枚時	花房散布 30～100ℓ/10a	1回	
	・着粒密度低減 ・果粒肥大促進	第1回目： ジベレリン 25ppm	第1回目： 満開予定日 14～20日前	第1回目： 花房浸漬 (ホルクロルフェニロン 3ppm液に加用)	2回 以内 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内)	
第2回目： ジベレリン 25ppm	第2回目： 満開10～ 15日後	第2回目： 果房浸漬				

ブドウ[無核栽培] ジベレリン粉末 (続き)

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		希釈倍数	使用時期	使用方法	回数	
2倍体欧州系品種 ※「シャインマスカット」が該当	・無種子化 ・果粒肥大促進	第1回目: ジベレリン 25ppm	第1回目: 満開時～ 満開3日後	第1回目: 花房浸漬	2回 以内 (但し、降雨等 により再処理を 行う場合は合計 4回以内)	・ジベレリンを含む農 薬の総使用回数は 3回以内。但し降雨 等により再処理を行 う場合は合計5回以 内。
		第2回目: ジベレリン 25ppm	第2回目: 満開10～ 15日後	第2回目: 果房浸漬		
		ジベレリン 25ppm	満開3～ 5日後 (落花期)	花房浸漬 (ホルクロルフェ ニユロン10ppm 液に加用)	1回 (但し、降雨等 により再処理を 行う場合は合計 2回以内)	
	・果房伸長促進	ジベレリン 3～5ppm	展葉3～ 5枚時	花房散布 30～100ℓ/10a	1回	
デラウェア	・無種子化 ・果粒肥大促進	第1回目: ジベレリン 100ppm	第1回目: 満開予定日 約14日前	第1回目: 花房浸漬	2回 以内 (但し、降雨等 により再処理を 行う場合は合計 4回以内)	
		第2回目: ジベレリン 75～ 100ppm	第2回目: 満開 約10日後	第2回目: 果房浸漬 又は 果房散布 30～100ℓ/10a		
		第1回目: ジベレリン 100ppm	第1回目: 満開予定日 18～14日 前	第1回目: 花房浸漬 (ホルクロルフェ ニユロン1～5 ppm液に加用)		
		第2回目: ジベレリン 75～ 100ppm	第2回目: 満開 約10日後	第2回目: 果房浸漬 又は 果房散布 30～100ℓ/10a		
						・ジベレリンを含む農 薬の総使用回数は 2回。但し降雨等 により再処理を行 う場合は合計4回 以内。

ブドウ[有核栽培] ジベレリン粉末

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		希釈倍数	使用時期	使用方法	回数	
巨峰	・果粒肥大促進	ジベレリン 25ppm	満開10～ 20日後	果房浸漬	1回 (但し、降雨等 により再処理 を行う場合は 合計2回以内)	・ジベレリンを含む農 薬の使用回数は1回 以内。但し降雨等 により再処理を行 う場合は合計2回 以内。

※品種や有核、無核など栽培方法によって登録内容が異なるため、製品に添付された取扱説明書の内容を必ず確認する。

ブドウ[無核栽培] フルメット液剤

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		濃度	使用時期	使用方法	回数	
サニールージュを除く巨峰系4倍体品種 ※「藤稔」、「ブラックビート」、「巨峰」が該当	・着粒安定	ホルクロルフェニロン 2～5ppm	開花始め～満開前 又は 満開時～満開3日後	開花始め～満開前に使用する場合 花房浸漬 (ジベレリン第1回目及び第2回目処理は慣行) 満開時～満開3日後に使用する場合 ジベレリンに加用 花房浸漬 (ジベレリン第2回目処理は慣行)	1回 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホルクロルフェニロンを含む農薬の総使用回数は3回以内。但し降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内。 ・ジベレリンおよびアグレプト液剤以外の薬剤との混用は避ける。
	・果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 5～10ppm	満開10～15日後	ジベレリンに加用するか又はホルクロルフェニロン単用で処理 果房浸漬 (満開時～満開3日後のジベレリンによる無種子化処理は慣行)		
	・無種子化果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 10ppm	満開3～5日後 (落花期)	ジベレリンに加用 花房浸漬		
	・花穂発育促進	ホルクロルフェニロン 1～2ppm	展葉6～8枚時	花房散布		
サニールージュ	・着粒安定	ホルクロルフェニロン 2～5ppm	開花始め～満開前 又は 満開時～満開3日後	開花始め～満開前に使用する場合 花房浸漬 (ジベレリン第1回目及び第2回目処理は慣行) 満開時～満開3日後に使用する場合 ジベレリンに加用 花房浸漬 (ジベレリン第2回目処理は慣行)		
	・果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 5～10ppm	満開10～15日後	ジベレリンに加用するか又はホルクロルフェニロン単用で処理 果房浸漬 (満開時～満開3日後のジベレリンによる無種子化処理は慣行)		
	・無種子化果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 10ppm	満開3～5日後 (落花期)	ジベレリンに加用 花房浸漬		
	・着粒密度低減 果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 3ppm	満開予定日 14～20日前	ジベレリンに加用 花房浸漬 (ジベレリン第2回目処理は慣行)		
	・花穂発育促進	ホルクロルフェニロン 1～2ppm	展葉6～8枚時	花房散布		

ブドウ[無核栽培] フルメット液剤(続き)

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		濃度	使用時期	使用方法	回数	
2倍体欧州系品種 ※「シャインマスカット」が該当	・着粒安定	ホルクロルフェニロン 2～5ppm	開花始め～満開前 又は 満開時～満開3日後	開花始め～満開前に使用する 場合 花房浸漬 (ジベレリン第1回目及び第2 回目処理は慣行) 満開時～満開3日後に使用 する場合 ジベレリンに加用 花房浸漬 (ジベレリン第2回目処理は慣 行)	1回 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホルクロルフェニロンを含む農薬の総使用回数は3回以内。但し降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内。 ・ジベレリンおよびアグレプト液剤以外の薬剤との混用は避ける。
	・果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 5～10ppm	満開10～15日後	ジベレリンに加用 果房浸漬 (ジベレリン第1回目処理は慣行)		
	・無種子化果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 10ppm	満開3～5日後(落花期)	ジベレリンに加用 花房浸漬		
	・花穂発育促進	ホルクロルフェニロン 1～2ppm	展葉6～8枚時	花房散布		
デラウェア (施設栽培)	・ジベレリン処理適期幅拡大	ホルクロルフェニロン 1～5ppm	満開予定日 18～14日前	ジベレリンに加用 花房浸漬 (ジベレリン第2回目処理は慣行)		<ul style="list-style-type: none"> ・ホルクロルフェニロンを含む農薬の総使用回数は2回以内。但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内。 ・ジベレリンおよびアグレプト液剤以外の薬剤との混用は避ける。
	・着粒安定	ホルクロルフェニロン 5～10ppm	開花始め～満開時	花房浸漬		
	・果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 3～5ppm	満開 約10日後	ジベレリンに加用 果房浸漬 (ジベレリン第1回目処理は慣行)		
		ホルクロルフェニロン 3～10ppm		ジベレリンに加用 果房浸漬 (ジベレリン第1回目処理は慣行)		

ブドウ[無核栽培] フルメット液剤(続き)

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		濃度	使用時期	使用方法	回数	
デラウェア (露地栽培)	・ジベレリン処理 適期幅拡大	ホルクロルフェニロン 1～5ppm	満開予定日 18～14日 前	ジベレリンに加用 花房浸漬 (ジベレリン第2回目処理は 慣行)	1回 (但し、降 雨等により 再処理を 行う場合は 合計2回以 内)	・ホルクロル フェニロンを 含む農薬の総 使用回数は2 回以内。但し 降雨等により 再処理を行う 場合は合計4 回以内。 ・ジベレリンお よびアグレプト液 剤以外の薬剤と の混用は避け る。
		ホルクロルフェニロン 2～5ppm		開 花 始 め ～ 満 開 時		
	ホルクロルフェニロン 5ppm	花房散布				
	・果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 3～5ppm	満 開 約 10 日 後	ジベレリンに加用 果房浸漬 (ジベレリン第1回目処理は 慣行)		
		ホルクロルフェニロン 3～10ppm		ジベレリンに加用 果房浸漬 (ジベレリン第1回目処理は 慣行)		

※品種や有核、無核など栽培方法によって登録内容が異なるため、製品に添付された取扱説明書の内容を必ず確認する。

ブドウ[有核栽培] フルメット液剤

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		濃度	使用時期	使用方法	回数	
巨峰系4倍体品 種 ※「藤稔」、 「ブラックビー ト」、「サニ ールージュ」「巨 峰」が該当	・果粒肥大 促進	ホルクロルフェニロン 5～10ppm	満開15～ 20日後	果房浸漬	1回 (但し、降雨等 により再処理を 行う場合は合計 2回以内)	・ホルクロルフェニロンを含む農薬の 総使用回数は1回。但し降雨 等により再処理を行う場合は 合計2回以内。 ・ジベレリンおよびアグレプト液剤以 外の薬剤との混用は避ける。

ブドウ フラスター液剤

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		希釈倍数	使用時期	使用方法	回数	
巨峰系4倍体品 種[巨峰・ピオー ネを除く] ※「藤稔」、「ブ ラックビート」、 「サニールージュ」が該当	・着粒増加 ・新梢伸長抑制	500～ 800倍	新梢展開葉7 ～11枚時 (開花始期まで)	散 布 100～150 ℓ/10a	2回 以内	・重複散布にならないよ うに注意する。 ・他の農薬との混用は避 け、単用で使用する。 ・多品種の混植園やブド ウ園同士が近接してい る場合、登録のない品 種に薬液がかからない ように注意する。
巨峰(露地栽培)	1,000倍	散 布 300ℓ/10a				

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		希釈倍数	使用時期	使用方法	回数	
巨峰(露地栽培) 巨峰(施設栽培)	・着粒増加 ・新梢伸長抑制	500～ 800倍	新梢展開葉7 ～11枚時 (開花始期まで)	散 布 100～150 ℓ/10a	2回 以内	<ul style="list-style-type: none"> ・重複散布にならないように注意する。 ・他の農薬との混用は避け、単用で使用する。 ・多品種の混植園やブドウ園同士が近接している場合、登録のない品種に薬液がかからないように注意する。
シャインマスカット	・新梢伸長抑制	500倍	満開10～ 20日後 但し、収穫 60日前まで	散 布 150ℓ/10a		
		1,000倍		散 布 300ℓ/10a		
	・着粒増加	1,000～ 2,000倍	新梢展開葉7 ～11枚時 (開花始期まで)	散 布 100～150 ℓ/10a		
デラウエア (施設栽培) (露地栽培)	・新梢伸長抑制	800～ 1,000倍	新梢展開葉 7～11枚時 (開花始期まで)	散 布 100～150 ℓ/10a	1回	
デラウエア (露地栽培)		1,500～ 2,000倍		散 布 200～250ℓ/10a		